

てのひらの詩

人間だもの、

と言われて安堵し腰をおろす

立ち上がり、歩きなさい

と言われて強くなって神を賛美する

思いが届かない

道草としか思えない

この遠回りも必要なのですか？

私はせっかちです

私も散々道草してきたのに・・・

時間が残っているでしょうか？

虫でさえ光に集るのに

何故人間は暗闇が好きなんだろう

精一杯の輝きをもって咲く花々の気高さ  
決して喧かず、他を傷付けることなく  
ただ観る者に安らぎと癒しを与えて  
静かに散っていく

人間も花のように  
優しく生きられないだろうか

樹が倒れている

樹液が出ている

虫たちが群がる

そのような樹に

ぼくはなりたい

時おり頬を撫でる風

草花の芽吹き

幼子のつぶらな瞳

ラウル・デュフィの絵

どれも小さな幸せを感じます

樹が岩を抱えている

人々はその樹に感動する

でもぼくは思い巡らす

羽交い絞めになった岩の気持ち



青い空に十字架がみえる

どれだけの人が十字架上のイエス様のお苦しみに思いを馳せているだろうか

悲しみで膨れた風船を割ってください

十字架に託し喜びを頂きたいのです

静かな湖水

湖畔を渡る涼風

岩肌を走る清流

千年も息づく森の木々

木々の葉からこぼれる緑の光

間近に咲く可憐な草花

遠く澄み渡る青い空

寒き空高きを仰ぎ乱雲に夕立を待つ

細き枝我が心打ち喜ばん大樹の命

桜花散り新緑芽生え落葉に実り熟する

我憩う田の輝きに我躍る稻穂の垂るを

天つ国高きを仰ぎ動乱に再臨を待つ

細き枝我が心なり喜ばん恵みの命

信仰者世々に代わりて永遠の命を繋ぐ

我憩う主の御言葉に我躍る新たな救い

わたしにできることは何も無い

いいえ、祈ることだけ

でも、それがいちばんの力

金がない

力がない

能がない

命がある

愛がある

泣きたいだけ泣けばいい

吐き出したいだけ吐けばいい

そう、それでも、聞こえてくるよ

心の奥底から 静かな優しい声が

平安で満たされるよ

心配なんて要らないよ

結婚をドタキャンした君の選択は正しい  
人生の伴侶を選ぶに妥協は無用  
四十を前に親に迷惑をかけて辛い  
不惑という境地に達する通過点だと思  
俺も人間関係を築けない為に休職延長  
悲しいやら悔しいやら情けないやら  
不惑の洗礼はしばれるね人生勉強だね  
心の欲する所に従いて矩を踰えずとは



絵が描けない

小さな花びらの一枚に降伏する

内側から輝き出る色彩

生命力溢れる艶やかさ

神様の御業、なんと素晴らしい！

根のしつかりと土掘む

蒲公英の花咲き終えて

薫る風へと種託す

主がしつかりと我掘み

その根に生を託すれば

天つ声こそ優しかれ

人の一生を歩み通すということは  
壮大な事業だと感じることもある

私の足がよろけないように

弱い私を守ってください

あなたの御許に憩うまで

人間誰もが報われない苦勞をしている

神様は、僕が知っている以上に

僕のことを知っているから

何も言うことはない

と言ったあなたに教えられました

神に在ってこの世界は

ヒューマニズムではない

行けと言えは行くし

来いと言えは来る

まことの主、まことの王

神の独裁の中に在って生きているんだ

神さま、あなたは私の祈りを

いっぱい聞いてくださいました

でも、私が一番聞き入れて欲しい願いを

叶えてくださらないのですか？

いつまで待てばよいのですか？

信仰の弱い私をお赦しください

どうして、と訊いても答えは虚しい

ただ未来に希望を持って歩もう



君はよく耐えているね

腐らないところが素晴らしい

弱そうだけれど底力がある

君は愛されている

神様の時を信じて待とうね

## 主の恵み

ロトの妻を見よ、オナンを見よ

主は逆らう者の命を取られる

アナニアを見よ、サツピラを見よ

生かされている者の恵みと使命を知れ

ごめんね

お手本になることができなくて

どーんと構えていることができなくて

遺してあげられるものがなくて

でも、

「あなたの賜物は信仰だ」

と言ってくれた君、ありがとう

天のお父様

わたしを道端や石や茨でなく

良い土地に蒔いてくださって感謝します

わたしの詩歌を用いて

豊かな実りを結んでください

君の寝顔は幼いときのままだね

いくつになっても変わらない

あどけない、平安な顔をしている

向きも一緒、布団の抱き方も一緒

この寝顔をわたしはいつまで

見ていられるのだろう

身体障碍の人を見ると尊敬する

だって頑張っているんだもん

精神障碍の人を見ると心震える

だって理解されないんだもん

知的障碍の人を見ると心温まる

だって嬉しそうなんだもん

つくづく思うよ

辛いことも、悲しいことも、

みんな経験してよかったって

その只中に在るときは解らなくても

ああ、このことのためだったんだって

思えるときがある

神様のご計画って素晴らしい

神に名を覚えられ命の書に記されること

人生はそのたった一行のためにある



あなたがこよなく愛したあの里山は

今もそのまま残っていますよ

あなたの深い遺志が

天に届けられたのだと思えてなりません